

おかもと呉服店(株式会社岡本)

公的支援やマネージャーのアドバイスで 着物文化を下支えする和装小物を開発



◀現代の名工に認定されている職人が設計しているため、縫い目が肌にあたらないように工夫されている。



▶「きもの柔肌着」ワンピースタイプ(¥22,000+税)と。セパレートタイプ(右)。

富山で、着物をこよなく愛する方であれば、「呉服の岡本」と聞くと「あーっ、あの『信用』を大事にするお店」とピンとくるであろう。創業者の岡本長次郎さんは、「信用」の二文字に羽織袴を着せたような御仁。それを表すエピソードもたくさん残されている。例えば商売にあたっての心構えとして、家族には口が酸っぱくなるように繰り返した。いわく…。

「米びつ空でも問屋に支払え」

仮に今日、明日食べる米がなくても、問屋への支払いを優先せよ、というのだ。

お客様からの信用を大事にした二代目のエピソードも紹介しよう。同店では、皇室の儀式用の装束を手がけられる人間国宝の喜多川俵二氏をはじめとする著名な作家の作品も扱っていて、平成14年に「喜多川平朗・俵二有職織物展」を開催。個人の呉服店としては極めて異例なことで、それゆえにうがった見方をした人もいたようだ。

いわく「人間国宝の作品にしては安すぎる。岡本は偽物を売っているのではないかと」。

その時、喜多川俵二氏が「お客様の手の届かない

価格では意味がない。すべての呉服屋さんが、岡本さんのような価格で販売してくれればうれしい」と助け舟を出してくれたそうだ。

こうした創業者(祖父)、二代目(父)の背中を見て育ってきたためか、後を継ぐ三代目の姉妹は早くからサービス業を志すように。妹の岡本倫子さんは、誰もが知っているテーマパークやファッションブランドのショップで接客を基礎から学んだ後に当店に入ったのだが、「着物の文化を継承していくことが当店の務め」と意気軒昂な一面を示しつつも、それを下支えするための和装小物の開発に乗り出し、呉服業界に一石を投じたのだった。

富山で最先端の技術と高級素材をコラボ

その和装小物とは、通気性に優れ、敏感肌の方に向けた和服用肌着。岡本さん自身もともと敏感肌で、そういう肌着が欲しかったという一面もあったようだ。

「以前から、衣類の縫い目などでこすただけで肌がかゆくなっていました。40歳を過ぎたあたりからもっ



◀平成23年に呉服の岡本創業100周年記念として開催された「有職織物展 人間国宝 俵屋十八代喜多川俵二」の広報で用いられたパンフより。



呉服の岡本正面のたたずまい。▶

と過敏になり、汗をかいたところを掻くとミズ腫れになりました。それで東京に行った時に、デパートの呉服売り場で『敏感肌用の綿の肌着はないですか』と尋ねてみると『あったら私も欲しい』と返ってきたのです。そこで、では自分でつくって、商品化してみようと思ったのです」

岡本さんが回想するのは平成24年前後のことだ。ただ「自分でつくる」といっても、アテがあった訳ではない。ものづくりの経験は皆無で、新しく事業を立ち上げることも初めて。何から手をつけたらよいのかと、迷うばかりであったという。

そこで岡本さんは平成25年度の「とやま起業未来塾」を受講することに。敏感肌用の肌着のビジネスプランを練り上げようと半年にわたって講師陣から特訓を受け、またその中で知遇を得た講師や当機構の支援マネージャーから、糸や生地メーカー、そして型紙や縫製の職人などを次々に紹介されたのだ。

結果としてみると、糸は県内の紡績工場で生産される超長綿糸と県内の問屋が扱っていたインドの高級コットンを使用。繊維メーカーの協力を得て、この2種類の糸を交互に織った生地を開発。設計は、立体裁断の第一人者として知られる県内のスポーツ衣料メーカーの熟練の職人に依頼し、縫製も縫い目が肌に当たらないよう加工し、裾の形を工夫して動きやすくする配慮も施した。

「中空の糸を使っているため通気性がよく、また滑らかな糸ですから生地は絹のようです。化学繊維の類似品に比べて肌への刺激は断然減りました」と岡本さんは新しく開発した肌着(商品名「きもの柔肌着」)の特徴について語るのだった。

マネージャーにマッチングの段取りも

その開発は、「小規模事業者活性化補助金」(25年度)や「中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新補助金」(25年度補正、ともに経済産業省)の支援を受けて進められたのだが、小売業やサービス業の経験しかなかった岡本さんにとっては新

鮮な一面もあったようだ。

「サービス業ではお客様がこられるのを待っているだけですが、製造業では素材や技術を持っている人を探し、それを結びつけていく。柔肌着の開発に当たっては、関西の企業を何社も訪ねましたが、中小企業支援センターのマネージャーから『富山県内に一流の技術を持つ企業があり、また品質のよい素材を扱う問屋もある』とアドバイスされ、マッチングの段取りもしていただきました。そういうご縁でできたネットワークの中から、今まで誰もつくれなかった敏感肌用の肌着をつくることができたのです」(岡本さん)

平成27年6月には「きもの柔肌着」の企画製造を担当する会社として(株)岡長商店を設立。メーカーとして責任の所在を明らかにするとともに、小売店である「呉服の岡本」に、他の着物小売店や問屋が声をかけるのはばかられるのではないかと、という配慮から別会社を立ち上げたのだ。そして「きもの柔肌着」の販売を始めたのは平成28年1月のこと。何度も改良を重ね、所期の目的どおりの生地ができた。未来塾の受講と並行しながら生地の開発を試みていた頃は、「年間数百枚の販売ができれば…」と青写真を描いていたのだが、生産から販売までの態勢を確立し、1年あまりを経過した今日では「年間1,000枚程度の販売」を目指して販路開拓に動んでいるところだ。

Profile

所在地 富山市上本町7-12
資本金 1000万円
従業員 4名
事業 着物、和装小物の販売
TEL 076-425-1714
URL <http://www.gofuku-okamoto.com/>



県内の繊維関係企業の技術を結集して「きもの柔肌着」の開発に取り組んだ岡本倫子さん。